

「ぼくは夢を見続ける」

蓮田市立黒浜南小学校五年 植木 涼太

本は国境を超え、世界を変えることができる。そう、今、ぼくは小説家になり本を通じて世界に夢の贈り物を届けたいと思っています。

ぼくは、文章を書く事が大好きです。でも、初めから好きだったわけではありません。それは、数年前のある作文コンクールで大きな賞を頂いたのがきっかけでした。その時は副賞のゲーム機が欲しくて軽い気持ちでの応募でしたが、賞が決まるとあっという間に多くの作品は本になり全国へ送り出されていきました。ぼくは、この賞をきっかけに、相手に思いを伝える事の大切さと面白さを知り文章の世界に入りこんでいったのです。

そんな中、あるコンクールで一人の新聞記者の方と夢についての話になりこんな話を聞きました。それは、これからの自分の夢を確信させる話でした。今、日本は物であふれています。この環境で育

った30人の子供達に夢を聞いたら30通りの回答が返ってくるのです。しかし、恵まれない国の同じ人数の子供達に夢を聞いたら5〜6通りの回答しか返ってこないというものでした。その子供達は、実際に物にふれる事もできなければ、情報もない。いわば、たくさんの夢がある事を知らないのです。この話を聞いてぼくはとてもショックでした。そして、ぼくに何かできないかと悩み考えぬいた末、恵まれない国の方にぼくの書いた本を贈り夢を知ってもらおうと思いました。一人でも多くの方に幸せを見つけてもらいたいと思ったのです。こうして、ぼくの文学への道が決まりました。その道のりとして、文学を専攻する学校へ入学、文章にたずさわる会社に就職をし、本に関連する様々なジャンルを知識に取り入れなければいけません。合間を見て文学コンクールへの応募など、執筆活動をしな

から自分と向き合う時間も必要です。ライフプラン表を見返してみても、本代や作家先生の講演会、弟子入りしてからの活動費等でたくさんのお金と時間がかかる事もわかります。そして、夢を叶えるためには、周りの方との理解や協力も必要になるでしょう。ぼくは、そんな方達と呼吸を合わせながら、応援してくれるみなさんに感謝の気持ちを忘れずに、どんな苦勞にも立ち向かっていきたいと思っています。

そう、ぼくは小説家になる。「夢見る事ができれば、それは実現できる。」

と、述べたウォルト・ディズニー氏のようにぼくは夢を見続けます。ぼくは本にたくさんの夢と希望を詰め込み、世界の国境の果てまで想いが届けられるような素晴らしい作品を作り上げたいと思います。

植木 涼太 のライフプラン

将来なにになりたいか? **小説家**  
その理由: **本を書いて、たくさんの人に夢を持ってほしいから**

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2018年	11才(小5)	進学のために じゅくに行く 自分の文章を伝える 訓練	じゅく代 本代
2019年	12才(小6)		
2020年	13才(中1)	中学入学 たくさんの作文 コンクールに応じ	
2021年	14才(中2)		
2022年	15才(中3)		
2023年	16才(高1)	高校入学(文学部入部) 小説を書く練習	入学金 授業料
2024年	17才(高2)		
2025年	18才(高3)		
2026年	19才(大1)	大学入学(文学部) 文学部研究室に入る 文学作家講演会 参加 講演会 費用	入学金
2027年	20才(大2)		
2028年	21才(大3)		
2029年	22才(大4)		
2030年	23才	出社(社員として) 文学校正学ス小説家に弟子入り	弟子入り 生活費
2031年	24才	文学コンクール等 応募する	
2032年	25才		
2033年	26才	小説家になる 海外進出 子供に本をプレゼント	海外費用 プレゼント代
2034年	27才		